

親子の成長

はまなす幼児センター父母会 会長 深井 博文

平成二十九年、はまなす幼児センターは開園三十周年を迎えました。慣れな中、記念すべきこの年に父母会長として、先生方や役員の皆様に助けられながら、この一年間務める事ができたことをとても嬉しく感謝しております。



はまなす幼児センター創立三十周年式典の様子

この地で生まれ育った私。現在小学校一年生の娘と年中児の娘、共にこの幼児センターで過ごしております。父親は、母親よりは子供の日々の様子を知らず、寝るまでの子供との時間の中で色々知ることができま

す。園での出来事を「こんなことがあった、こんなことをした」と、事細かく話をしてくれ、こちらとしても楽しくなってきたものです。同時に、先生方と子供達との関わりにも有り難さも感じます。子供達の「できたよ!」「やったよ!」を聞ける事は嬉しいものでした。たくさん行事がある中、行事以外でも色々な体験や経験をさせていただき、子供達も大きく成長してくれています。



親子雪遊び会の様子

二才児いちご組からお世話になっていた下の娘は、入園当初から二ヶ月近く玄関で泣いていました。朝預ける時は、後ろ髪を引かれる思いで帰ってきたと母親は言っております。そんな娘と母親を、不安にならぬよう、心配させないようにと暖かく迎えてくれた先生方には本当に助けられました。そんな娘も、四月からは年長児で、時の早さを感じずにはいられません。

日々成長

北辰小学校 教諭 三橋 伸幸

平成二十九年四月に北辰小学校に赴任し、もう少して一年が経とうとしています。教育実習では、たくさん先輩教師の実践を見て、教師としての術を学びました。その学びを胸に刻み、これから始まることに期待を膨らませながら、教師としての一年目をスタートさせました。

しかし、赴任直後は、教師として子どもたちとどう接したらよいか、自分の言動が子どもたちの将来に大きく影響を与えてしまう、自分の教え方次第で子どもたちの人生が変わってしまう、そんな悩みや不安ばかりがのしかかり、教師としての責任と重圧に押しつぶされそう日々を過ごしていました。自分の無力さを嘆く日々でした。

子供の数が少なくなりつつあるこの時代での、一才児保育の開始、時には厳しく、時には優しく見守って下さっている先生方に感謝しております。これからも私自身、子供達と一緒に色々な事を学び、成長していけたらと思っております。

師たちでした。どんな子どもたちになつてほしいかという思いを持ちながら接していくことが一番大事だということに改めて教えていただきました。それから今日まで、本校の学校目標である「学ぶ子 優しい子 強い子」に自分の思いも入れながら子どもたちと向き合っています。



北辰小学校入学式の様子

私の好きな言葉の中に「吸収」という言葉があります。自分ができないことを発見したら、それができる人を探す。そして、どうしたらできるようになるか、見たり聞いたりしてできるようになるように努力する。そうやって自分の中に吸収することが、成長するために必要なことだと思います。

人間関係においては、「嫌いな人をつくらない。」ことが大事だと考えています。人を嫌いになるということ、その人からもう何も得られないのと同義だからです。人は皆長所と短所を持っていきます。子どもたちは、例えるなら新品のスポンジです。これからは、人の短所ばかり気にするのではなく、人の長所を見つけ、自分の中に吸収できる人になってほしいと考えています。

私は、幸いにもたくさんの人と関わることができる職に就くことができ

第一歩を踏み出して

西陵小学校

教諭 櫻吉 昴

西陵小学校に赴任する知らせを受け、私は共和町についていろいろ調べました。そこでおいしい食べ物や名産品、娯楽が豊富なことを知り、アウトドアが好きな自分にとってとても魅力のある町であると嬉しくなりました。しかし、四月の赴任の日が近づくと、生活の楽しみより社会人と

ました。日常的に子どもたちや保護者、地域の方々などに関わり、たくさんの方々のことを吸収しながら、周りの方々に成長させてもらっています。人とのつながりを大切に、これからも「日々の成長」の人生を歩んでいきたいと思っています。



北辰小学校田植え体験学習の様子

して仕事が始まる不安が大きくなってきました。四月に入り、子どもたちや先輩の先生方と出会い、それまでの不安が一掃されました。子どもたちは、私を心から受け入れてくれ、ともに遊び学習し、楽しい毎日を過ごすことができました。先生方は、右も左もわからない

私に丁寧に教えてくださいました。着任してからは怒濤の一年でした。子どもたちと関わっていると、自分の未熟さを思い知らされます。どのような指導が正解なのかと毎日模索し続けました。それが、これからの自分に生きていくか正直わかりません。ただ、がむしゃらに毎日を過ごすことに、今は充実感を覚えています。



西陵小学校運動会の様子

私は今、五年生で外国語活動の授業のお手伝いをさせていた、だいております。授業では、子どもたちが外国語でコミュニケーションを取ることができるようという気持ちを持って一緒に活動しています。毎年西陵小の高学年は、二セコで海外の観光客にインタビューする活動に取り組んでいます。教室での外国語の授業では、周りの先生方や友達と助け合いながら英語を楽しんでいます。しかし、二セコでは、全て自分たちの力でコミュニ

ケーションを取らなければなりません。「英語でコミュニケーションをとることはこんなに難しい！でもできるととてもおもしろいね！」と感じることができたらいいと思います。もうすぐ私は教師として、また社会人として二年目を迎えます。この一年は、職場の先輩方や地域の方々を支えられてきました。「一年目だから」と甘えさせてもらったことも多々あったかもしれませんが、これからは、今までより厳しい目で見られ、自分自身にもより厳しくしていかなければなりません。

今年度以上に来年度は、挑戦する年になりたいです。「二万一回目は何か変わるかもしれない。」という歌詞があった気がします。失敗しながら、どんなことにも諦めずに挑戦する毎日を過ごし、子どもたちと一緒に自分も成長できたらいいと思います。



海外の観光客にインタビューする活動の様子